

平成24年度 食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物の サーベイランス・モニタリング年次計画等実施状況

化学物質サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
重金属等	カドミウム	わが国の農業生産上、重要な品目である大豆及び小麦のカドミウム含有実態を詳細に把握	大豆	○	○	
			小麦			
		H7～H14年度の調査において比較的高濃度のカドミウムを含有していた水産物を対象に実態を把握	ベニズワイガニ(筋肉)	○	○	
			ベニズワイガニ(内臓)			
	ヒ素	カドミウム吸収抑制対策と両立するヒ素低減技術開発のためのデータを蓄積	玄米、水稻茎葉、土壌等	○	○	
		米中の形態別ヒ素の含有実態及びとう精効果の把握	玄米、精米	—	○	コーデックス委員会汚染物質部会でのコメ中無機ヒ素の基準値検討、実施規範作成に対応
		試験室間妥当性確認	ヒ素添加コメ試料	—	○	タイ、インドネシア、シンガポールの分析機関も参加して実施
	鉛	コーデックス委員会汚染物質部会(CCCF)が最大基準値の見直しを検討中のため、実態調査が行われていない加工食品の含有実態を把握	缶詰	○	—	不落札(応札価格が予定価格を超過)となったため、再検討中
			乳製品			
			油脂			
			食塩			
			果実飲料			

○:(計画)年次計画に掲載した調査 / (実施状況)H24年度に実施した調査

—:(計画)年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況)H24年度に実施できなかった調査

化学物質サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
ダイオキシン類	ダイオキシン類(コプラナーPCBを含む)	畜産物への残留の主要な経路である飼料について含有実態を把握	動物性油脂	○	○	
			魚油			
			魚粉等			
		ダイオキシン類濃度の経年変化を調査し、排出抑制対策の効果を把握	牛乳	○	○	
			牛肉			
			豚肉			
			鶏肉			
			鶏卵			
			ウナギ(養殖)	○	○	
			ベニズワイガニ			
			スズキ			
かび毒	デオキシニバレノール(DON)及びアセチル体(3-アセチルDON、15-アセチルDON)	リスク管理措置の有効性を検証するため、国産麦類における全国的な含有実態及び年次変動を把握 DONとアセチル体との含有量の相関も確認	小麦	○	○	
			大麦			
	ニバレノール(NIV)及びアセチル体(4-アセチルNIV)	リスク管理措置の有効性を検証するため、国産麦類における全国的な含有実態及び年次変動を把握 NIVとアセチル体との含有量の相関も確認	小麦	○	○	
			大麦			
	T-2トキシン及びHT-2トキシン	国産麦類における全国的な含有実態及び年次変動を把握	小麦	○	○	
			大麦			
	ゼアラレノン	国産麦類における全国的な含有実態及び年次変動を把握	小麦	○	○	
			大麦			
	フモニシン	リスク管理の必要性の検討、CCCFにおける最大基準値設定の議論に資するため、加工食品に含まれるフモニシン類の含有実態を把握	とうもろこし加工品	○	—	その他の危害要因の調査を優先したため、次年度以降の実施を検討
		飼料への基準値設定の必要性を検討するため、飼料用とうもろこし等における含有実態を把握	配合飼料	○	○	
			主要穀類等			

○: (計画)年次計画に掲載した調査 / (実施状況)H24年度に実施した調査
 —: (計画)年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況)H24年度に実施できなかった調査

化学物質サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
食 品 製 造 由 来 有 機 汚 染 物 質	アクリルアミド	主要品目中の含有濃度を調査し、低減対策の効果を把握	日本人において摂取寄与が高いと推定される加工食品 (10品目程度を選定)	○	○	H24年度は8品目の調査を実施、残りの品目の調査はH25年度に実施予定
		ばれいしょ加工品中のアクリルアミド含有濃度の季節変動・年次変動を把握	成型ポテトチップス	○	○	
			フライドポテト			
		長期貯蔵が黒糖中のアクリルアミド濃度に及ぼす影響を把握	黒糖	○	○	
	多環芳香族炭化水素 (PAH)	魚類燻製食品からだし汁中にPAHが溶出するかを確認	魚類燻製食品	○	○	
			魚類燻製食品抽出液			
	3-MCPD脂肪酸エステル及びグリシドール脂肪酸エステル	3-MCPDエステル及びグリシドールエステルについては、JECFAによるリスク評価の優先度が高いため、国内での含有実態を把握するための予備調査を実施 同時に、個別成分毎に分析する直接分析法と、遊離した3-MCPDを測定しその測定値からエステル含量を推定する間接的分析法とによる、分析結果の違いを比較評価	植物油 マーガリン 粉ミルク 等	○	○	品目を食用油脂に絞り、間接的分析法でのみ調査を実施
(植 自 然 毒)	ピロリジジナルカロイド類	コーデックス委員会で議論されているが、国内のデータは皆無に近いため予備調査を実施	蜂蜜 牛乳 フキ ワラビ	○	—	国内で入手できる標準試薬の種類が限られことが判明したため、実施を見送り

○: (計画) 年次計画に掲載した調査 / (実施状況) H24年度に実施した調査
 —: (計画) 年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況) H24年度に実施できなかった調査

化学物質サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
残留性有機汚染物質	ポリブロモジフェニルエーテル(PBDE)	日本人の摂取量に関するデータが不足しているため、トータルダイエツスタディを実施し、推定摂取量を把握	全食品群及び飲料水	○	○	複数年に分けて実施することにしており、24年度は1地域で予備調査
	パーフルオロオクタン酸(PFOA)及びパーフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	日本人の摂取量に関するデータが不足しているため、トータルダイエツスタディを実施し、推定摂取量を把握	全食品群及び飲料水	○	○	
生体アミン	ヒスタミン	水産品以外に海外では発酵食品についてもヒスタミン汚染が報告されていることから、国内における汚染状況を把握(予備調査)	チーズ	○	○	・代表的な生体アミンであるチラミンも併せて測定 ・しょうゆについては、H23年度の予備調査で検出率、平均含有濃度が高いことが判明したため追加
			発酵乳・乳酸菌飲料			
			農産物漬物			
			しょうゆ	—	○	・納豆については、H23年度の予備調査で一部から高濃度のチラミンが検出されたため追加
			納豆	—	○	

○: (計画) 年次計画に掲載した調査 / (実施状況) H24年度に実施した調査
 —: (計画) 年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況) H24年度に実施できなかった調査

化学物質サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
無機汚染物質	硝酸性窒素	乳幼児の摂取寄与の大きい食品について、国内における汚染状況を把握するための予備調査	ベビーフード (野菜主原料のもの)	○	○	・亜硝酸性窒素も併せて測定
			乳児用飲料 (野菜、果実飲料)	○	○	・ベビーフードは、乳幼児用のおかず、素材、おやつを対象に実施
			野菜冷凍食品	—	○	・家庭で調製される離乳食やベビーフードの原料となるため、野菜冷凍食品を追加
(海自産然毒)	下痢性貝毒	機器分析法とマウス検査法(食品衛生法の公定法)の比較試験	ホタテガイ、ムラサキイガイ	—	○	コーデックス委員会やEUの動向を踏まえ、機器分析法の導入検討を進めるために実施

○:(計画)年次計画に掲載した調査 / (実施状況)H24年度に実施した調査

—:(計画)年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況)H24年度に実施できなかった調査

化学物質モニタリング

(平成25年1月現在)

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
				計画	実施状況	
重 金 属 等	カドミウム	飼料中の残留基準値への適合を確認するため実施 モニタリングの結果は、残留基準値の見直しに活用	配合飼料	○	○	
			乾牧草			
			動物性飼料 (魚粉、肉骨粉等)			
	総水銀	飼料中の残留基準値への適合を確認するため実施 モニタリングの結果は、残留基準値の見直しに活用	配合飼料	○	○	
			乾牧草			
			動物性飼料 (魚粉、肉骨粉等)			
	鉛	飼料中の残留基準値への適合を確認するため実施 モニタリングの結果は、残留基準値の見直しに活用	配合飼料	○	○	
			乾牧草			
			動物性飼料 (魚粉、肉骨粉等)			
か び 毒	ゼアラレノン	飼料中の残留基準値への適合を確認するため実施 モニタリングの結果は、残留基準値の見直しに活用	配合飼料	○	○	
			乾牧草			
			主要穀類等			
	デオキシニバレノール	飼料中の残留基準値への適合を確認するため実施 モニタリングの結果は、残留基準値の見直しに活用	配合飼料	○	○	
			乾牧草			
			主要穀類等			

○: (計画) 年次計画に掲載した調査 / (実施状況) H24年度に実施した調査
 -: (計画) 年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況) H24年度に実施できなかった調査

微生物サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因	調査の趣旨	具体的な 調査対象品目	H24年度		備考
			計画	実施状況	
カンピロバクター	肉用牛農場における保有状況の把握と侵入経路の解明	糞便等	○	○	
	食肉処理施設における交叉汚染実態の把握と汚染経路の解明	肝臓、胆汁、 腸管内容物	○	○	
	肉用鶏農場における保有状況の把握と侵入経路の解明	盲腸便等	○	○	
	食鳥処理施設における交叉汚染実態の把握と汚染経路の解明	部分肉(もも、胸、 肝)、体表付着物、 腸管内容物	○	○	
	豚農場における保有状況の把握	糞便等	○	○	
	性状解析	—	—	○	
サルモネラ	肉用鶏農場における保有状況の把握と侵入経路の解明	盲腸便等	○	○	
	食鳥処理施設における交叉汚染実態の把握と汚染経路の解明	部分肉(もも、胸、 肝)、体表付着物、 腸管内容物	○	○	
	採卵鶏農場における保有状況の把握と侵入経路の解明	盲腸便、鶏卵、塵埃	○	—	25年度に実施予定
	肉用牛農場における保有状況の把握	糞便等	○	○	
	豚農場における保有状況の把握	糞便等	○	○	
	性状解析	—	—	○	

○: (計画) 年次計画に掲載した調査 / (実施状況) H24年度に実施した調査

—: (計画) 年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況) H24年度に実施できなかった調査

微生物サーベイランス

(平成25年1月現在)

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	H24年度		備考
			計画	実施状況	
腸管出血性大腸菌	肉用牛農場における保有状況の把握と侵入経路の解明	糞便、体表付着物	○	○	
	食肉処理施設における交叉汚染実態の把握と汚染経路の解明	肝臓、胆汁、腸管内容物	○	○	
	衛生指標菌の分布の調査とスプラウト生産における汚染源の解明	・乾燥種子～出荷までの各成長段階のスプラウト ・培地や水など、栽培環境及び資材	○	○	
ノロウイルス	養殖場における汚染状況の把握とリスク低減対策の検討	カキ、海水等	○	—	分析法やリスク低減対策の可能性について情報収集中
リステリア・モノサイトジェネス	肉用牛農場における保有状況の把握	糞便、体表付着物	○	○	
	豚農場における保有状況の把握	糞便、体表付着物	○	○	
	肉用鶏農場における保有状況の把握	糞便、体表付着物	○	○	
	食鳥処理施設における交叉汚染実態の把握と汚染経路の解明	部分肉(もも、胸、肝)、体表付着物、腸管内容物	○	○	
	性状解析	—	—	○	
真菌	米のカビ汚染防止のための管理ガイドラインの効果の検証、米の乾燥調製施設等に存在する真菌(アフラトキシン産生菌を含む)の実態を把握	米の乾燥調製施設等	—	○	H24年2月に、左記ガイドラインを策定したことから、関連する調査を実施

○: (計画) 年次計画に掲載した調査 / (実施状況) H24年度に実施した調査

—: (計画) 年次計画に掲載しなかった調査 / (実施状況) H24年度に実施できなかった調査